

健康創造都市 KOBE 推進会議／令和 3 年度総会 発言概要

- 日 時 : 令和 3 年 7 月 13 日 (火) 13:40～15:00
- 場 所 : 明治安田生命神戸ビル 4 階会議室 (オフライン会場)
Zoom によるオンライン開催 (オンライン開催)
- 出席団体 : 4 2 団体
- 議 事 :

1. 開 会

・ 座長及び副座長の選任

座 長 : 神戸市民病院機構 橋本理事長 (再任)

副座長 : アシックス尾山会長、理化学研究所渡辺先生 (再任)

2. 議 題

(1) 健康創造都市 KOBE 推進会議 取り組み報告について (資料 1)

●事務局より【資料 1】について説明

- ・ 参画団体は、2021 年 7 月時点で 104 団体。着実に活動が広がっている。
- ・ 2020 年度に事務局及び部会については運営体制を変更
事務局 : メンバーを行政・広報・経済・ヘルスケアといった機能別に再構成
部会運営 : プロジェクト単位で自律的に

●質疑応答

座 長 : 設立当初は 58 団体であった参画団体が現在 104 団体になっているとのこと。

今後、増える見込みや積極的に増やそうという動きはあるのか。

事務局 : 引き続き多くの企業・団体に参画していただき、協働の取り組みを広げればと考えている。

(2) コンテンツ部会の取り組み報告について (資料 2)

●コンテンツ部会・部会長 (江崎グリコ株式会社) より【資料 2】について説明

- ・ コンテンツ部会の活動方針として「コンテンツ部会の参画企業は、神戸市民の健康維持・増進に貢献することを宣言し、積極的にその活動を行うこととする」を作成。
- ・ 江崎グリコとアシックスが 1 年ごとに部会長を務め (2021 年は江崎グリコが部会長、アシックスが副部会長)、事務局には、(株)Moff が参加。
- ・ 年 4 回開催し、課題に関して議論し進捗確認
- ・ 具体的な活動は 5 つのプロジェクトにおいて議論を進めている。

①神戸市民の健康リテラシー向上させる活動

- ・ 健康創造都市の HP を作成し、健康情報を広く発信し、市民の健康と暮らしの向上を目指す。

②高齢者の介護予防のための活動

- ・ ロコモフレイルのような運動機能障害を防ぎ、健康寿命の延伸、QOL 向上を通じて神戸をすこやかにすることを目的に議論を進めている。

③妊娠期から中高年までの栄養課題の改善のための活動

- ・「妊娠期を中心とした栄養課題の改善」として、MCK の妊産婦コースなどを活用した啓発や食育・栄養指導ができないか、議論を進めている。
- ・「朝食欠食改善プログラム」として、ナッジのような取り組みを通して、若者世代の朝食欠食を減らし、健康課題を解決していくべく、検討中。

④中高年から高齢者の認知機能向上のための活動

- ・脳機能に着目したフィンランドの FINGER（フィンガー）研究の神戸版として、運動・脳トレ・栄養といった3本柱でコンテンツ提供をすることで、認知機能の低下予防ができないか検討中。「神戸モデル」との連携は難しいので、再構成中。

⑤健康無関心層の行動変容を促すための活動

- ・参画企業内で「食」「糖尿病」などといった様々なテーマを考え、具体的な取り組みを検討中。
- ・アイデアとして出てきたものをどのように実装していか、実行していくかが課題。

●質疑応答

味の素(株)：

「朝食欠食改善プログラム」のリーダーを務めている。プロジェクトの進捗状況と参画企業の皆様へお願いをさせていただきたい。これまで朝食を食べていなかった対象者に対して、朝食摂取を習慣化できるような仕掛けを介入研究実証によって探りたい。現在、介入案を検討中。多くの方に介入実験に参加をいただくべく、参加者募集の際にはご協力をいただきたい。

(3) 健康経営部会の取り組み報告について

●健康経営部会・部会長（明治安田生命）より【資料3】について説明

- ・健康経営部会には39企業・団体が参画。
- ・明治安田生命が部会長、日本イーライリリーが副部会長を務め、神戸市内の企業や団体における健康経営の促進を支援するための活用を推進。
- ①健康経営を啓発する活動として、2021年3月より、康経営に関するコンテンツや、無料のセミナー情報を掲載したメルマガを、月1回ペースで参画企業向けに配信開始。また、2020年10月には「企業向け健康経営セミナー」を開催
- ②健康経営に関する課題研究として、健康経営実践プロジェクトチームにおいて「“見えない多様性”に優しい職場づくり」プロジェクトを立ち上げた。偏頭痛など見た目にはわかりづらい症状、周囲に理解されないことで生じる不安や働きづらさを「見えない多様性」として定義し、見えない多様性を理解することによって、一人一人の行動変容と誰もが働きやすい環境を目指すことを目的に取り組んでいる。これまで、プロジェクト参加メンバーでオンラインワークショップを実施。
- ・2021年度においては、健康経営を啓発する活動として「こうべ健康経営会議 2021」を開催する予定。健康経営に関する課題研究として、健康経営実践プロジェクトチームの活動を進化させていきたいと考えている。

●質疑応答

日本イーライリリー(株)：

「“見えない多様性”に優しい職場づくり」プロジェクトについては、引き続き見えない健康課題を中心とした活動を多くの方々と広めていきたい。

また、昨今のコロナ禍の影響も考え、運動不足等のライフスタイルの変化も生じており、知らないうちに進んでしまっている生活習慣病といった切り口での活動についても検討していきたいと考えている。

神戸商工会議所；

神戸商工会議所では2017年9月に「こうべスポーツ産業懇話会」を立ち上げ、スポーツ産業振興に取り組んでいる。2021年度は、コロナ禍で関心の高まっている「健康経営」を推進していきたいと考えている。

(4) 神戸市の健康データ利活用について(資料4)

●健康データ活用専門官より【資料4】について説明

- ・神戸市では、2つの情報基盤を使いながら健康データの利活用に取り組んでいる。
- ・データの利活用にあたっては、ICTを活用した健康づくり支援及び開発・研究・実証によるイノベーション創出を目的としている。
- ・デジタルヘルスのサービスについては健康意識が高い健康関心層のため、自律的に健康づくりができるタイプが多いということがわかっており、今後は健康にそれほど関心がない健康無関心層の方々に対して、どのような政策が提供できるのかを、情報基盤を使って集めたデータから検証していく。
- ・市民 PHR システムで提供しているデジタルヘルスサービスについて、特徴的なことは、「AI 健康アドバイス」。データを入力すると、過去に入力されたデータからその人に最適化されたアドバイスが即時もらえるようになっており、デジタルの力、ICTの力を借り、省力化した上で、健康づくりができないかを検証している。
- ・もうひとつの情報基盤として「ヘルケアデータ連携システム」。神戸市の各部署が管理している健康関連データを個人単位で紐づけて管理できるシステム。
- ・現在までの健康データの利用実績として主なものを紹介。

○LIFE Study 九州大学

- ・第1回緊急事態宣言下で適切な医療サービスが神戸市内において提供されていたのかどうか、極めて緊急性の高い心臓発作に対するカテーテル手術の件数を用いて検証。カテーテル手術は減っているが、緊急手術の件数は減っておらず、通常通り行われていたことが分かった。

○ナッジの最適化研究 兵庫県立大

- ・コロナ禍におけるフレイル予防のためのナッジの最適化研究。コロナ禍でのウォーキングイベントにおいて、「外に出たくなる」呼びかけを実施。現在、結果は検証・分析中。

○オンラインフレイル予防 (株)Moff・東大

- ・高齢者のフレイル予防に対して、オンラインでの運動プログラムにとり、運動機

能低下を防ぐことができるかを検証した実証実験。PHR システム登録者のうち高齢者へ呼びかけ、3ヶ月の研究を実施した結果、高齢者であってもオンライン上でフレイル予防が実施できることがわかった。将来的には、ヘルケアシステムも用いて、参加者・非参加者を比較検証できたと考えている。

○健康アドバイス最適化 AI 開発 リンク&コミュニケーション・大阪大学

・リンク&コミュニケーションと大阪大学で健康アドバイスを最適化する AI を開発。後は実装をするという段階。

- ・市民のデータは匿名加工されたのちに学術機関に提供される。
- ・現在の PHR システムは、登録者数が 6,300 人強。40 歳代～60 歳代で 70%強を占める、高齢者は約 7%
- ・情報基盤を運用してみた気づきとして、よかった点は、実証のための情報基盤としての位置づけが確立でき、比較的スピーディーに実証や研究が実施できるようになったこと、及び協業案件が実施できていること。これまでは市の事業としての位置づけで公募により実施してきたが、今後は健康創造都市 KOBE 推進会議のようなコンソーシアムの中から様々な案件がうまれてくるよう、広報に努めたい。

●質疑応答

JAGES（日本老年学的評価研究機構）：

JAGES では、厚生労働省が実施する「健康にやさしいまちづくりのための環境整備に係る実証事業」を受託。①国交省まちなかウォークアブル推進事業、②自治体による健康ポイント事業、③対面の通いの場とオンライン通いの場の導入支援事業と3つの班に分かれており、身体活動・参加・健康面で評価をする予定。

このうち、②自治体による健康ポイント事業において、MCK を活用し、健康や交流に資するキャンペーンを実施、その前後での健康や交流のデータの変化を分析する。

今回の研究は、健康にやさしいまちづくりについて、ハードの面とソフトの面の両面から研究を進める点が大きな魅力。現在は、データ利用・審査の準備を進めており、秋に研究用データの利用の開始、MCKのデータでの効果分析、その後、効果的な介入方法を国交省まちなかウォークアブル推進事業とのコラボによる取り組みの検討を予定。参画企業からも、健康行動のきっかけとなる魅力的なコンテンツやキャンペーンについてご提案いただき、ご協力いただきたい。

(5) 健康創造都市 KOBE 推進会議規約、幹事会要綱の改正について（資料 5・6）

●事務局より【資料 5 及び資料 6】について説明

3. その他

・新型コロナウイルス感染症の対応状況について（資料 7）

●花田局長より【資料 7】について説明

- ・第 4 波については、特に変異株の影響で、感染者数が大幅に増えている。
- ・年齢構成については、第 1 波から現在まで変わらず、20 代、30 代の方の感染が多く、特に第 4 波になって 40～50 代が重症化するケースが増えてきた。

- ・病床使用率について今は比較的落ちついた状態。第4波のピーク時は95%程度とICUに入る必要がある患者が自宅待機せざるを得ない状況だった。
- ・神戸市としては、医療体制が逼迫した状況にならないよう、ワクチン接種を急いだ。
- ・ワクチンを進むまでの間及びワクチン接種後も、マスクをしていただくこと、マスクを外した時は距離をとっていただくことの徹底をお願いしたい。

・アフターコロナにおける健康づくり対策について（資料8）

●健康企画課 森井課長より【資料7】について説明

- ・自粛生活が長期間続いていることにより、運動不足、生活習慣の乱れ、心の健康の悪化、地域活動の減少、受診控えによる疾病の悪化等、市民の健康にも様々な影響が出ていることを予測。
- ・今後は、官民連携によって、市民の健康度アップにつながる取り組みをぜひ検討させていただきたい。参画団体の皆様方のお力添えをいただきながら、神戸市民の健康度アップにつなげていきたい。

・「KOBE野菜を食べようキャンペーン」及び「第17回こうべ食育フェアWEB配信」のご案内（資料9）

●健康企画課 藤本課長より【資料8】について説明

- ・KOBE 野菜を食べようキャンペーンについては、5年目の取り組み。取り組みのフィールドをMCKのアプリ内や各社の社員食堂にも広げていきたいと考えている。
- ・ご協力いただける企業様には、卓上POP等の刻々の設置や野菜たっぷりメニューの提供などをさせていただきますので、ぜひ申込をお願いします。また、会社単位でMCKが未登録の会社・団体様については、この機会にぜひご検討をいただきたい。
- ・「第17回こうべ食育フェア」について、イベントの現地開催は緊急事態宣言により中止。ライブイベントを収録してweb配信中。
- ・大学生を対象とした、「KOBE 大学生食チャレンジ #3 オンザライス」を現在実施中。若い世代の方に自身の食生活や健康を考えるきっかけとしたいので、広報にご協力いただきたい。
- ・食物アレルギーの方でも外食を楽しめる環境づくりを検討中。実施の際にはご協力をお願いしたい。

・風しんの追加的対策への協力について（資料10）

●保健所保健課予防衛生担当 藤本課長より【資料10】について説明

- ・S37.4.2～S54.4.1 生まれの男性が対象。対象者には抗体検査の無料クーポンを送付している。抗体検査の結果、十分な抗体がない方については、予防接種も無料で可能。周知依頼とともに理解・協力依頼。

4. 閉会